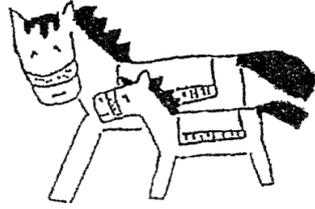


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

23年 10月 NO. 203



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		10月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
10月 9日	日	運動会において! 9:00～13:00		乳児さんも早く出番がありますので おいで下さい。	
10月 21日	金	おはなしの会 10:30～11:30		秋のおいしいたべものの紙芝居や おはなしがあります。	
10月 22日	土	体験保育 10:00～12:00		同じ年齢のクラスに入って あそびましょう。	
10月 22日	土	おもちゃをつくって遊ぼう 14:00～16:00		まがたま 勾玉作りや買い物袋あそびを しますので、どなたでもどうぞ。 (託児予約要)	
10月 26日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00		高学年や中学生の安全なケイタイの 使い方について、教育委員会の方 から話をお聞きします。	
10月 28日	金	健康・育児相談 11:00～12:00		小児科の園医師にゆっくり相談できます。	
10月 29日	土	体験保育 10:00～12:00		出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。	
10月 29日	土	孫まご塾 14:00～16:00		第2回孫育て講座で「赤ちゃんとのコミュニ ケーション」について実技もあります。	

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談 (月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	--

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



町・上より

金子みすゞ
童話全集
美しい1

なひどみ
いそこつ
てひやめ
いるそら
る。がで
が いれば

た洋遠神
よ灯い輿
りのこの
なくろ、の
なさ、の
：さ
：。

日み来田
がじて舎
暮かみの
れいたま
て秋が、
の、り

洋灯



最近の幼保一体化の動きで保育園や幼稚園はこの先どのように変化していくのか、先が見えない不安な日々です。

そんな中で「保育園を考える親の会」が保育所育ち、幼稚園育ちについてとりあげていますので、ご紹介します。

☆幼稚園出身者のほうが学力が高いの？ pretty flower

先日、各新聞紙上で紹介されたある記事が、保育園を考える親の会（以下、親の会）のメーリングリスト上でちょっとした物議を醸しました。それは、今春実施された全国学力調査で、3歳～6歳の間の幼児教育の経験を児童生徒に聞き、学力調査の正答率との関係と比較してみたところ、幼稚園出身の子の正答率は小6、中3とも全教科で保育所出身の子より高かったというものでした。

詳しい比較内容も紹介されており、小6では、基本知識を問う国語のA問題の正答率は幼稚園出身者85.4%、保育所出身者82.1%で幼稚園のほうが3.3ポイント高く、最も差があった知識の活用力を問う算数のB問題では5.0ポイントの差。この傾向は中3も同じで、6.3ポイント（数学B）～3.4ポイント（国語A）の差があり、どちらにも通ったことがない子の正答率は保育所出身者よりさらに低かったというのです。

☆親の会では異論、反論が噴出！

親の会の会員の大半は保育所利用者、利用経験者なので、当然、この調査結果には異論、反論が噴出しました。以下に、いくつかをご紹介します。

- すごく乱暴な統計だ。養育環境などがまったく無視されている。
- 3ポイント差というのは、統計上の誤差の範囲内の数字ではないのか。
- 保育所に通わせている親たちに不安を与えるのではないかと心配。
- 保育所出身の子は低学力だっていいいの？
- そもそも保育所は、幼稚園に比べてカバーする家庭の範囲がとても広い。そうした背景がこの記事ではまったく説明されていない。
- 一口に幼稚園といっても、園による手法の違いが保育所よりむしろ広く、何をもって幼稚園教育というのか根拠が曖昧。

そして、最も多くの会員の共通した思いとして指摘されたのが、

- 幼保一体化が叫ばれる昨今、何か政治的な意図でもあるのでは？

というものでした。実際に、記事の本文中にも「データが一人歩きすると、近所に幼稚園がなかったり、働いていたりして通わせられない保護者の動揺を招きかねない」（耳塚寛明・お茶の水女子大学副学長〈教育社会学〉）という有識者の指摘も紹介されていました。

☆さて、わが家の場合は・・・



わが家は、息子は1歳から私立保育所にお世話になりました。私は公立幼稚園・2年保育の出身、地方出身者の夫は「幼稚園」の看板が掲げられた園に通っていましたが家業が忙しく、兄弟が通っていたこともあり、2歳で入園させてもらったとのことなので保育所に近いものだったのではないかと推測されます。しかしこうしたケースであっても、幼稚園の看板が掛かっている限り、統計上は「幼稚園」としてカウントされるのでしょう。

このように、都市部では棲み分けがきちりとしている幼稚園と保育所ですが、地方では保育所が地域で唯一の幼児教育機関であり、実際の親の就労の有無にかかわらず保育所に通わせることもあるという話も聞きます。つまり、わが家の例だけを見ても、会員が指摘しているように、バックグラウンドまでしっかり分析しない限り、統計上の数字は信憑性が高くないことがわかります。

そして、何より懐疑的になったのは、息子の現状です。保育所では、生活面でのしつけは本当にしっかりやっていただきました。当時、わが子は、Tシャツの畳み方等は私よりはるかに上手でしたが、小学校に入学すると、だんだんと自分で畳まなくなっていました。しかし、“おだてる”と、上手に畳んでいました。ところが現状は、彼が帰宅後、今どこにいるのかすぐにわかります。なぜなら、彼が通った道筋には、脱いでそのままの衣類が散乱しているからです！

「雀百まで踊り忘れず」などといいますが、身に沁み込むほどに厳しく勉強に明け暮れば事情は異なるでしょうが、一般的な幼児教育程度ではむしろ「十歳で神童、十五歳で才子、二十歳過ぎれば並みの人」という諺のほうに共感を覚えます。

わが家は手を抜いたばかりに悲惨な現状！？を迎えてしまったように、幼児教育も、幼稚園出身か保育所出身かなどというよりも、その後も継続して学習習慣を身につけさせるようなアプローチを家庭で行ったかどうか、その後の子どもの学力の差異につながるのだというのが生活者としての実感です。

☆この際、データを活用してみませんか？



私が記事の中で最も注目したのは、無薩隆・白梅学園大学大学院教授（発達心理学）の「小6や中3段階でも差があることを考えると、家庭環境の差が要因として大きい可能性がある。保育所は低所得層など、家庭環境が不利な子どもも受け入れている。そのうえで補うところは補い、どちらに通うにせよ、質の高い幼児教育を受けられるようにする必要がある」という談話でした。

幼保一体化がより一層現実味を帯びている中、文部科学省がどういった意図をもって今回はじめてこのような調査項目を追加させ、統計として発表したのかは知りませんが、保

育所の保護者を含め、すべての保育関係者は、むしろこのデータを活用して、次のようにモノ申してはどうかと思います。

「幼稚園と保育所では学力に差があるという統計がでました。しかも幼稚園関係者は、その原因が充実した遊具や広い運動場にあるとおっしゃっていますが、まさしくその通りだと私も思います。

だったら今すぐ、すべての保育所に充実した遊具や広い運動場を設置すべきですよ。ゆめゆめ『近くに公園があれば、それを園庭とみなしてもよい』なんて基準をおくべきではないですよ。

最後に、小さい頃、散々「運動神経をお母さんのお腹に置き忘れてきた」といわれた私ですが、高校生くらいから体育の時間に笑われる！？ことは一切なくなり、今は人並み。親子野球大会などではむしろ「できる母」グループにカウントされることさえあります。努力でいくらでも変われることもお忘れなく。

高い税金を使って、子育ての不安の種をまくような調査分析。今後のあり方を一考していただきたいですね。

(保育通信より — 保育園を考える親の会スタッフ 別当律子さんの文)



レポート

—届け私たちの希望と平和を願う声！…米国の子どもたちから—



☆痛みと悲しみを分かち合う

「日本に大地震・Tsunami 発生」のニュースはまたたく間に全世界に伝わりました。発生直後より世界各地から全私保連も団体会員の OMEP (世界幼児教育機構) 日本委員会へ「子どもたちは大丈夫?」「保育施設は?」「何かできることは?」の声が届いています。

ここでは、とくに米国の教育現場や文化施設における行動を報告します。

☆Wish Tree (希望の木) プロジェクト

…ボストン子ども博物館

「多くの国では、紙にお願いごとを書いて木にくくりつけます。この木は『希望の木』と呼ばれています。今回、日本人学生さんがパズルのような木を作成してくれました。あたたかな前向きで心あたたかく活力あるメッセージを1枚の紙に寄せて、日本の方たちに送りませんか?」

米国東部、マサチューセッツ州ボストンにあるボストン子ども博物館は、「実体験」型として世界的に有名です。京都市と姉妹都市のボストン、館

内には日本の家庭生活を疑似体験できる「京の家」があります(どうみても1970年代あたりの生活ですが)。その入口に震災後すぐ「希望の木」が置かれました。メッセージの中には、

- ・日本、大丈夫だよ (アレクサンドラ)
- ・また家を建て直せますように (ジョイソン)
- ・愛しているよ
- ・家が失われませんように (キャサリン)
- ・テレビのビデオを観て泣いちゃったけれど、日本はもっとよくなると思うよ (クイン)
- ・お小遣い寄付するからね
- ・魚が救われますように
- ・水と食べ物がありますように
- ・寄付金送るからね、そうすればよい暮らしになるよ

など、多くの子どもたちから日本の被災した子どもたちに「応援しているよ」、声が届け!とメッセージが寄せられていました。

(保育・子育て総合研究機構だより 2011.9月号より)